

本ガイドラインは主に大学院進学者向けのものです。完全版を一部省略しています。  
学部生のゼミ選択については直接お尋ねください。  
完全版はゼミのオリエンテーション時に配布します。

## 重松ゼミ ガイドライン

### 1. 研究室の基本方針

#### • 「科学的な臨床心理学の探求」

当研究室は「臨床心理学研究室」である。主に、**認知行動理論に関連するテーマ**を取り扱う科学的な臨床心理学の探求、**作用機序(メカニズム)**の解明を意識  
必ずしも臨床群を対象とした研究を行うわけではありません。アナログ研究も重要視します。  
※アナログ研究:非臨床群を対象者として行う研究

#### • 「実践への寄与」

研究は「臨床像」を念頭において行う(=どんな困っている人を想定しているか)

### 2. 位置づけ

- ・ 院生は「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」「課題研究Ⅰ・Ⅱ」に位置づけられる。
- ・ 講義と異なり、ひとりひとりが最終的に修士論文を完成できるように、主体的な活動が必要となる。
- ・ 逆を言えば、主体的に取り組まないと修了はできません。

### 3. 目標

院生:修士論文の作成を通して

- ・ 研究成果を積極的に世に出す(学会発表・論文発表)
- ・ 徹底した先行研究のレビューを行う
- ・ 研究分野の中で妥当な仮説を構築する
- ・ **先進的な課題の解決方法**を選択する
- ・ 計画的に研究を実施する
- ・ 学術的な意義をもった論文の執筆と、プレゼンを行う
- ・ 幅広い心理学分野の見識を取得する(特に認知臨床心理学分野)  
+  $\alpha$  **認知行動療法の理論に則った実践を行う**

### 4. 発表内容

**院生**

修士研究の実施

- ・ 主に修士研究の進捗報告と相談をする。
- ・ 前半は研究分野のレビューを行い、発表する。主に国際誌をレビューする。
- ・ 後半は、研究実施のための資料や手続きの具体的な検討を行う。

同時に卒論の「方法」までの執筆を行う。

- ・ データが揃い次第, 分析と「結果」「考察」を順次執筆してレジメ形式で発表する。
- ・ 進捗に応じ, 学会発表や査読付き論文の執筆を行う。

◇ 夏休みには課題が出ます → 研修会や合宿で発表

## 5. 研究室の推奨活動

- ・ 研修会, 学会への参加  
※特に院生は学会への入会と参加を勧めます
- ・ 対人支援に関連するボランティア活動

## 6. 連絡について

- ・ 連絡ツールとして「Discord」を併用します。

## 7. 大学院への進学を志望の方へ

- ・ 研究テーマは, 当研究室で研究および指導できる範囲のものに限ります。当研究室の研究内容をご理解の上, 進学をお願いします。心理学分野であれば何でも OK という方針はとりません。
- ・ ご希望の研究内容が指導の対象外である場合, 受け入れを不可にすることがあります。
- ・ 経済的なことのご相談がありましたら, ご遠慮なくお教えください。
- ・ 博士課程後期への進学をお考えの方は, 別途相談に応じます。
- ・ 最低限の心理学的な考え方や知識, 論文の読み方, 解析手法などは習得したうえで進学してくることを前提としています。さらに進学後, 必要に応じていろんなことを学んでいくことになります。不安な方は, ご遠慮なくご相談ください。
- ・ 現在卒業論文に取り組まれている方は, **まずは卒論のクオリティを上げることに注力してください。**
- ・ 上記の事項の具体的な確認も必要なので, **出願前に必ず事前に研究室訪問を行ってください。**
- ・ 特に公認心理師志望の学生さんは, 臨床のトレーニングも研究も一生懸命取り組むことになります。どちらかに重きをおく, ということは当研究室では行いません。

## 8. 推薦図書例 (学生のうちにたくさん本を読みましょう)

(研究関連)

- ・ アナログ研究の方法 杉浦義典 著
- ・ プロセス研究の方法 岩壁 茂 著
- ・ 認知臨床心理学入門 W. ドライデン 編集
- ・ 臨床認知心理学 (叢書 実証にもとづく臨床心理学) 小谷津 孝明 編集
- ・ 感情心理学ハンドブック 日本感情心理学会
- ・ 感情制御ハンドブック 有光 興記 監修

(臨床関連)

- ・ 認知行動療法実践ガイド:基礎から応用まで ジュディス・S・ベック (著)

- ・ 実践家のための認知行動療法テクニックガイド:行動変容と認知変容のためのキーポイント 坂野 雄二 (監修)
- ・ ケアする人の対話スキル ABCD 堀越 勝 (著)
- ・ 入職1年目から現場で活かせる! ところが動く医療コミュニケーション読本 中島 俊
- ・ クライエントの言葉をひきだす認知療法の「問う力」—ソクラテス的手法を使いこなす 東京駒場 CBT 研究会 (著), 石垣 琢磨 (編集), 山本 貢司 (編集)
- ・ はじめてまなぶ行動療法 三田村 仰 (著)
- ・ はじめての応用行動分析 ポール・A. アルバート (著)
- ・ 行動分析学入門 杉山 尚子 (著)
- ・ プロセス・ベースド・セラピーをまなぶ: 「心の変化のプロセス」をターゲットとした統合的ビジョン ステファン・G・ホフマン (著), スティーブン・C・ヘイズ (著), デイビッド・N・ロールシャイト (著)
- ・ アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT) 第2版 -マインドフルネスな変化のためのプロセスと実践 - スティーブン・C・ヘイズ (著), カーク・D・ストローサル (著), ケリー・G・ウィルソン (著), 武藤 崇 (翻訳)
- ・ マインドフルネス認知療法:うつを予防する新しいアプローチ ジンデル・シーガル (著), マーク・ウィリアムズ (著), ジョン・ティーズデール (著), 越川 房子 (監修, 翻訳)
- ・ メタ認知療法: うつと不安の新しいケースフォーミュレーション エイドリアン・ウェルズ (著), 熊野宏昭 (監修, 翻訳), 今井正司 (監修, 翻訳), 境 泉洋 (監修, 翻訳)
- ・ 新世代の認知行動療法 熊野 宏昭 著
- ・ 60のケースから学ぶ認知行動療法 坂野 雄二 (著, 監修)
- ・ ケースで学ぶ行動分析学による問題解決 山本 淳一 (編集)
- ・ 施設職員 ABA 支援入門:行動障害のある人へのアプローチ 村本浄司 著
- ・ 心理臨床家の手引き 鑪 幹八郎 名島 潤慈 (著)
- ・ DSM-5-TR